

(別紙)

静岡県浜松内陸コンテナ基地指定管理者評価委員会 会議録

1 開会

企業立地推進課長が開会の挨拶をした後、評価委員会の趣旨を説明。

2 事務局からの説明（指定管理者の概要、評価方法について）

事務局（企業立地推進課）から配布資料に基づき、指定管理者の概要及び評価方法について説明。

3 指定管理者からの報告

指定管理者である公益財団法人静岡県コンテナ輸送振興協会（佐藤専務理事）から、配布資料に基づき、令和4年度の管理運営実績等について報告。

4 指定管理者への質疑応答

【くん蒸棟について】

（評価委員）

- ・くん蒸棟の利用は長い期間ないが、現状をどのように考えているか。

（指定管理者）

- ・以下のような理由から、今後、くん蒸棟が利用される見込みはないのではないか。
 - 外来生物を国内に入れないよう、輸入貨物の植物検疫の国の要綱では港頭地域で行うこととしており、内陸にあるコンテナ基地は制度上、想定されていない。
 - 輸出用の木材こん包消毒について熱処理で行われている。
 - 地球温暖化の問題からもコンテナ基地のくん蒸棟が使用する臭化メチルについては、製造について貨物の輸出入に際して行う検疫等用途が限定されており、規制が厳しくなっている。

（評価委員）

- ・利用が見込めないのであれば、くん蒸棟を取り壊すなどの検討をしても良いのではないか。

（指定管理者）

- ・あり方検討の中で検討いただいていると思うが、すぐに取壊しというのは、条例で設置が定められた施設であるため難しい。

（評価委員）

- ・指定管理の業務として指定されているということであれば、利用の可能性が低くても使える状態に保つ必要があるが、維持費用はどうなっているか。

(指定管理者)

- ・令和2年度に県が最低限の補修工事を実施した。他には費用は掛っていない。

【管理費の削減について】

(評価委員)

- ・令和4年度に特に実施した管理費の削減取組があるか。

(指定管理者)

- ・予算が厳しい中で削減に取り組んできているため、追加での取組はなかなか難しいが、令和4年度は冬期の節電プログラムに参加したことで20万円を受け取ることができた。

【寄附金について】

(評価委員)

- ・令和4年度は法人として寄附金をいただいたとあったが、どのような経緯でいただき、今後はどのようになるか？

(指定管理者)

- ・基本財産として運用している債券の利息が買換で下がり、法人会計が不足することになっていくため、利用者の海貨企業へ寄附をお願いし対応している。

【人員体制について】

(評価委員)

- ・人員体制は変わらないという理解でよいか？

(指定管理者)

- ・4人体制は変わらない。新型コロナや介護などでどうしても休まざるを得ない時もあり、施設を管理運営していく上で、最低限4人は必要と考えている。

【職員が不在の際の対応について】

(評価委員)

- ・職員数が4人だと、新型コロナなどにより、職員が全員不在となることもあり得るが、そうした場合の対応策は？

(指定管理者)

- ・管理棟の入居団体に開場についての依頼もできるようにしているほか、利用者が施設を開錠できるため、最低限の利用はできる。

【DX化について】

(評価委員)

- ・DX化にはどう取り組んでいるか？名古屋港ではNACCSがサイバーテロで止まったが、そういうリスクはあるか？

(指定管理者)

- ・費用対効果を検討し、エクセル等で事務を効率化する努力はしているが、デジタル化・システム導入は行っていない。
- ・このため、システムに対するサイバーテロのリスクはない。インターネットは使用しているため、セキュリティソフトを入れて対策している。

(評価委員)

- ・USBは自由に使える状態か？使った場合の管理はどうか？

(指定管理者)

- ・USBは基本的に使わない。人の入替えて引継をする際に1度だけ使用したのみ。使用回数が増えるようであれば、管理体制の整備も必要と認識している。

(評価委員)

- ・バックアップについてはどうか？

(指定管理者)

- ・バックアップはとれていない。サーバーを購入するなど検討しており、課題として認識している。

【災害時の対応について】

(評価委員)

- ・災害時に地域の住民を受け入れるような考え・計画はあるか？

(指定管理者)

- ・広域物資輸送拠点の代替拠点に位置付けられているため、住民の受入は想定していない。

【利用者からの要望について】

(評価委員)

- ・利用者からの要望は何か出ているか？

(指定管理者)

- ・コンテナヤードの白線を引いてほしいと依頼があり、職員で対応した。

【輸出入の統計データについて】

(評価委員)

- ・パンフレットに掲載されている統計について、「その他」が大部分を占めているため、この状態が続くようであれば分類を変更し、その他に何が入っているか把握することを検討する必要があるのではないか？

(指定管理者)

- ・統計法に基づいたものではなく、利用事業者の協力を受けて行っているものになり、回答者側の手間も掛かっているため、更に細分化し負担を増やすことは懸念がある。
- ・細かく何を扱っているかを出すと、事業内容が分かることになるため、利用者の経営に関わることであり、理解を得にくいかもしれない。そこは配慮が必要である。

【コンテナ基地の今後のあり方について】

(評価委員)

- ・あり方検討について、50周年誌で提言を行ったが、現在の検討状況はどうか。

(指定管理者)

- ・県で勉強会を設置し検討を進めているため、そこに協力している。

(県)

- ・いただいた提言について、庁内で関係課を集めた勉強会を立ち上げた。提言で選択肢をいただいているため、具体的に一つ一つの選択肢に対して検討をしていく予定。

5 委員による意見交換、評価

委員による意見交換、評価を行うため、指定管理者はいったん退室。

(評価委員)

- ・特筆すべき事項はなかった。
- ・統計について、「その他」の項目の明確化が、回答者側の立場を考えると難しい部分があるのは理解した。しかし、こうした統計をしっかりと集めて、それを分析し利用者や一般の方に説明するというのは大事なことである。特に公益財団法人でもあるため、団体としての説明責任もある。

(評価委員)

- ・指摘事項は特になかった。良くやっているという印象を受けた。
- ・施設のPR活動について、パンフレットはしっかり作られているが、施設の見学会など、もう少し幅を広げ工夫した取組をすべきではないか。

(評価委員)

- ・例年どおり、しっかりやられているという印象を受けた。
- ・寄附金について、利用者からいただく努力をしたのは評価できるが、寄附金を継続的に当てにするというのも問題である。
- ・コストについても、既に削減の取組は進められており、物価高もある中で、これ以上の削減努力もある程度限界が来ているのではないか。

- ・県にも相談して、コストが下げられないとなれば、どのように収入を上げるのか、指定管理料の金額なども含めて、検討してほしい。

(評価委員)

- ・ノウハウが蓄積され、安定的な運用がされている。
- ・BCP も細かく更新されているが、実効性を高めるような見直しをすることが重要。限られた人員の中でも不測の事態に対応できるような体制を確保するよう一層努めてほしい。

(評価員)

- ・新型コロナの中でも、重大な事故等なく、安定的に運用されていることは評価できる。
- ・収支について、厳しい中でやりくりしているのは評価できる点だが、実際に寄附金を受けたりしなければ運営できない状況は非常に厳しいものがある。
- ・今後は、指定管理者だけでなく、利用者及び県も含めた3者で対応策を検討してほしい。

6 評価発表、講評

- ・指摘事項は特になし。
- ・総合評価については、「良」評価できるという結果になった。
- ・コロナ禍にありながら目的に沿った安定した運用をしていることや、BCP も繰り返し更新し実効性の高いものにされていることは評価できる。
- ・統計に関して中身が分からない「その他」の割合が多くなっていることについて、公益財団法人でもあるため、団体としての説明責任の意味でも、利用者や一般の県民への報告をどのようにしていくか、少し検討してほしい。
- ・これ以上のコスト削減が難しい中、節電プログラムへの参加や寄附金の受領など、経費でなく収入面に対応されたのは非常に良い取組だった。しかし、収入が不足している状況は令和5年度以降も継続した課題となる。利用者や県と一緒に、対応策を検討してほしい。